

2022年度

日本健康医療専門学校

シラバス (講義概要)

鍼灸学科

1年生

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	法学入門(社会科学1)	
福井 丈郎	ビジネス系専門学校で簿記、販売士等の受験指導に携わる。 中小企業診断士 行政書士 F P		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 社会人として適正に法律を遵守することは不可欠である。またトラブルに巻き込まれないよう、法的知識を身につけておくことは職業人として必須項目である。講義の前段は①法とは何か、②法律の体系、③法秩序の原則、④法令の解釈の仕方を理解する。日本国憲法の正しい理解と、民法、労働法の基礎を学習することが主たる講義内容である。			
〈到達目標〉 法的素養、中でも正しい法解釈を習得することを第一目標とするが、叶うならば法的思考力の獲得を最終的な目標としたい。			
2 授業内容			
第1回	ガイダンス 日本国憲法概説① 立憲主義について		
第2回	日本国憲法概説② 自由主義と統治機構		
第3回	民法① 契約とは 債務不履行について 不法行為		
第4回	民法② 医療過誤について インフォームドコンセント 患者の知る権利 自己決定権		
第5回	あはき法概説① 日本国憲法25条（生存権）に立脚するはりきゅう師のあるべき姿		
第6回	あはき法概説② はりきゅう師の業務とは		
第7回	治療院経営法務①		
第8回	治療院経営法務②		
第9回	学習習熟度確認テスト（中間試験）		
第10回	労働基準法概説① 労働契約の締結 労働契約の内容 労使協定 労働契約の終了 解雇		
第11回	労働基準法概説② 賃金 賃金の支払		
第12回	労働基準法概説③ 労働時間 休憩 休日 時間外労働・休日労働 割増賃金		
第13回	治療院経営法務③		
第14回	治療院経営法務④		
第15回	最終評価		
3 履修上の注意			
出席状況を成績評価の中心にする。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。			
5 教科書			
指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。			
6 参考書			
特になし。			
7 成績評価の方法			
最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。			
8 その他			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	国語表現(人文科学1)	
赤塚 史	専門学校での国語関連科目講師 (6年)		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>すべての学習の根幹は国語にある。どんなに情報化社会が進んだとしても『読み、書き』の学習における重要性は色褪せない。それは、例えば学生が社会人となっても同様である。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>専門分野の学習が始まるにあたり、もう一度この国語学習の基礎に取り組んで行きたい。講義の前段は語彙力、漢字力、基礎的な構文の理解をする。次に文章理解と文章作成力を養う。文章を『読む力』と、文章を『書く力』の習得が当講義の到達目標である。</p>			
2. 授業内容			
第1回	自己紹介の仕方を学ぶ	第16回	・「強調したい言葉」の位置
第2回	じゃんけんを知らない人に向けて説明する	第17回	・長い情報の位置
第3回	「デカイ主語と小さい主語」という文章を読む	第18回	・すっきりはっきり書く
第4回	わかりやすい解説文	第19回	わかりやすい文章③
第5回	語彙を増やす	第20回	・「の」「が」の連続に注意
第6回	語彙を増やす	第21回	・「て」「が」で安易につながらない
第7回	事実と意見の違い	第22回	・読点の打ち方
第8回	説明文の書き方	第23回	
第9回	わかりやすい文章①	第24回	説明文(論説文を書く)
第10回	・一文一義	第25回	・事実と意見の違い振り返り
第11回	・主語述語を合わせる	第26回	・説明文の構成を知る
第12回	・主語述語を近づける	第27回	
第13回		第28回	
第14回	わかりやすい文章②言葉の順番	第29回	添削の練習(自己点検)
第15回	・語順の基本	第30回	
3. 履修上の注意			
鍼灸の専門科目には直接の影響はあまりないが、資格取得後に役立つ内容を準備しているので少しでも関心を持って臨むこと。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容			
配布プリントや授業内での内容の復習			
5. 教科書			
教員サイドで作成する教材(プリント等)を使用する			
6. 参考書			
適宜紹介			
7. 成績評価の方法			
平常点(出席状況, 課題提出等を総合的に鑑み評価) 試験(レポート形式)			
8. その他			
スケジュールは学生の状況を考慮して変更する場合もある			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	コミュニケーション(人文科学2)	
赤塚 史	専門学校での国語関連科目講師(6年)		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>患者等への対応に必要なコミュニケーション能力を身につけると共に、それらを良好にするためのビジネスマナーを習得する。医療従事者と患者間、或いは医療従事者同士で情報が正しく伝達されないこと(コミュニケーションエラー)により、様々な事故や問題の発生が予見されます。それらを未然に防止するには①相手にわかりやすい説明をすることができる言語力、②相手が正しい理解をすることのできる文章作成力、③相手の話をしっかりと聴くことのできる会話力これらを養うことが重要です。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>医療従事者として患者等へしっかりとした説明をすることができること、そしてインフォームド・コンセントの重要性を認識させることが、当講義の到達目標である。</p>			
2. 授業内容			
第1回	対象に合わせた掲示物	第16回	上手な「報告」
第2回	敬語	第17回	
第3回	メールの書き方	第18回	
第4回	電話のかけ方、受け取り方	第19回	目上の人や年長者とのコミュニケーション
第5回	「感じの良い」話し方	第20回	
第6回	具体的に伝える練習①	第21回	
第7回	具体的に伝える練習②	第22回	
第8回	丁寧に質問する練習	第23回	
第9回	相手の話を聞きとり、内容をまとめる	第24回	信頼を得たいときの言葉遣い
第10回		第25回	
第11回		第26回	
第12回		第27回	
第13回		第28回	
第14回	上手な「報告」	第29回	コミュニケーションで大切なことをまとめる
第15回		第30回	
3. 履修上の注意			
鍼灸の専門科目には直接の影響はあまりないが、資格取得後に役立つ内容を準備しているので少しでも関心を持って臨むこと。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容			
配布プリントや授業内での内容の復習			
5. 教科書			
教員サイドで作成する教材(プリント等)を使用する			
6. 参考書			
適宜紹介			
7. 成績評価の方法			
平常点(出席状況, 課題提出等を総合的に鑑み評価) 試験(レポート形式)			
8. その他			
スケジュールは学生の状況を考慮して変更する場合もある			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	社会保険制度(社会科学2)	
福井丈郎	ビジネス系専門学校で簿記、販売士等の受験指導に携わる。 中小企業診断士 行政書士 F P		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>日本国憲法第25条に規定する理念に基づき制定されている様々な社会保障制度の内、特に疾病、老齢、失業、労働災害などの事由に基づき給付される社会保険制度について取り上げ講義を行う。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>日本の社会保険制度を理解し患者等に適切な指導助言ができる知識を得ること。</p>			
2. 授業内容			
<p>第1回 ガイダンス 社会保険制度の全体像</p> <p>第2回 公的医療保険の全体像 健康保険と国民健康保険の仕組み</p> <p>第3回 年金保険① 国民年金と厚生年金の仕組み</p> <p>第4回 年金保険② 老齢給付 障害給付 遺族給付</p> <p>第5回 介護保険 介護保険の仕組み</p> <p>第6回 雇用保険① 雇用保険の仕組み</p> <p>第7回 雇用保険② 失業給付 就職促進給付 教育訓練給付</p> <p>第8回 労災保険① 労災保険の仕組み</p> <p>第9回 労災保険② 療養補償給付 休業補償給付 傷病補償給付 障害補償給付</p> <p>第10回 民間保険① 民間保険の仕組み</p> <p>第11回 民間保険② 定期保険 養老保険 終身保険 医療保険</p> <p>第12回 損害保険の仕組み</p> <p>第13回 個人年金保険</p> <p>第14回 社会保険と税金</p> <p>第15回 最終評価</p>			
3. 履修上の注意			
出席状況を成績評価の中心にする。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。			
5. 教科書			
指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。			
6. 参考書			
特になし			
7. 成績評価の方法			
最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。			
8. その他			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	人体の構造(自然科学)	
鈴木 誠	臨床経験10年 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。		
必修	4単位 (60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 人体の構造を学ぶ上で、生物学の基本を理解することはとても重要である。この時間は「生物とは何か」という問いから始まり、生物の誕生と進化、細胞学や遺伝学、発生学について学ぶ。			
〈到達目標〉 「生物とは何か」という問いから始まり、生物の誕生と進化、細胞学や遺伝学、発生学について学びながら人体の構造上の特徴を理解することが目標となる。			
2 授業内容			
1回	人体の構造総論	16回	7) 心臓の血管 3. 動脈系 1) 肺循環の動脈系
2回	第1章 人体の構成 1. 細胞 1) 細胞の構造	17回	2) 体循環の動脈系
3回	2) 細胞分裂と遺伝子	18回	2) 体循環の動脈系
4回	2. 組織 1) 上皮組織 2) 結合組織	19回	2) 体循環の動脈系
5回	2) 結合組織	20回	4. 静脈系
6回	3) 筋組織 4) 神経組織	21回	5. 胎児循環 6. リンパ系
7回	3. 体表構造	22回	第4章 消化器系 1. 消化管の基本構造 2. 口腔
8回	4. 人体の区分と方向 1) 人体の区分	23回	3) 舌 4) 歯 5) 唾液腺
9回	2) 人体の切断面と方向	24回	3. 咽頭 4. 食道 5. 胃
10回	第2章 循環器系総論	25回	6. 小腸 1) 十二指腸 2) 空腸と回腸
11回	1. 血管系 1) 循環の概要	26回	3) 小腸の組織構造と機能
12回	2) 血管の構造 3) 吻合 4) 門脈	27回	7. 大腸 1) 盲腸 2) 結腸 3) 直腸
13回	2. 心臓 1) 心臓の位置 2) 心膜 3) 心臓の壁	28回	4) 大腸の組織構造と機能 8. 肝臓 9. 胆嚢
14回	定期試験1	29回	10・脾臓 11. 腹膜
15回	4) 心房と心室 5) 心臓の弁膜 6) 刺激伝導系	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
前回の授業内容の復習をすること。			
5 教科書			
「解剖学 第2版」 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社)			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
定期試験1と定期試験2それぞれで60%以上を合格とする。			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(解剖学1)	
谷 佳奈	美容系のサロンに3年、リハビリ施設に3年勤務		
必修	2単位 (60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。この講義では、神経系（中枢神経）、感覚器系、内分泌系について基礎的な解剖学の知識を習得する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>この講義では、神経系（中枢神経）、感覚器系、内分泌系について、基礎的な解剖学の知識を習得することで人体の構造を理解し、鍼灸臨床で遭遇する様々な症状の患者に対応できるようにすることを目標に学習する。</p>			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション・【第8章神経系】概要	16回	末梢神経：脊髄神経①
2回	中枢神経①	17回	末梢神経：脊髄神経②
3回	中枢神経②	18回	末梢神経：脊髄神経③
4回	中枢神経③	19回	末梢神経：脊髄神経④
5回	中枢神経④	20回	末梢神経：脊髄神経⑤
6回	中枢神経⑤	21回	末梢神経：脊髄神経⑥
7回	中枢神経⑥	22回	末梢神経：脊髄神経⑦
8回	伝導路①	23回	【第9章感覚器】概要・視覚器
9回	伝導路②	24回	平衡聴覚器①
10回	末梢神経：脳神経①	25回	平衡聴覚器②
11回	末梢神経：脳神経②	26回	味覚器・嗅覚器
12回	末梢神経：脳神経③	27回	【第7章内分泌器】概要・内分泌器①
13回	末梢神経：脳神経④	28回	内分泌器②
14回	定期試験1	29回	内分泌器③
15回	末梢神経：脳神経⑤	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
私語は慎むこと、机上に飲食物やスマホを置かない、その他学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業の冒頭に確認テストを行うので前回の授業内容について見直して臨むこと			
5 教科書			
解剖学 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
6 参考書			
プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)			
7 成績評価の方法			
定期試験60%以上を合格とする。小テストを行った場合、成績に加味する。			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅱ(解剖学2)	
野口 智立	2007年より鍼灸治療院に勤務し、現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	2単位 (60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。基礎的な解剖学の知識のうち、骨格系について習得することで人体の構造を学習する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>鍼灸臨床において基本となる筋骨格系を理解し、安全な刺鍼を施せるようにする。 また、筋骨格系を理解することで、鍼灸臨床で遭遇する様々な疾患や障害を理解することができる。</p>			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション、骨格系総論	16回	頭蓋骨 (顔面頭蓋)
2回	体幹骨格 (脊柱)	17回	筋系総論
3回	体幹骨格 (脊柱、胸郭)	18回	体幹の筋 (胸筋)
4回	体幹骨格 (胸郭)	19回	体幹の筋 (胸筋)
5回	上肢骨格 (上肢帯、上腕の骨)	20回	体幹の筋 (腹筋)
6回	上肢骨格 (前腕の骨)	21回	体幹の筋 (腹筋)
7回	上肢骨格 (手の骨)	22回	体幹の筋 (背筋)
8回	下肢骨格 (下肢帯の骨)	23回	体幹の筋 (背筋)
9回	下肢骨格 (大腿の骨)	24回	上肢の筋 (上肢帯の筋)
10回	下肢骨格 (下腿の骨)	25回	上肢の筋 (上腕の筋)
11回	下肢骨格 (足部の骨)	26回	上肢の筋 (前腕の筋)
12回	頭蓋骨 (脳頭蓋)	27回	上肢の筋 (前腕の筋)
13回	頭蓋骨 (脳頭蓋)	28回	上肢の筋 (前腕の筋)
14回	頭蓋骨 (顔面頭蓋)	29回	上肢の筋 (手内筋)
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
<p>予習復習を必ず行い、知識の定着を心掛けること。</p>			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
予習復習を必ず行い、知識の定着を心掛けること。			
5 教科書			
解剖学〈東洋療法学校協会編〉(医歯薬出版株式会社)			
6 参考書			
<p>7 成績評価の方法</p> <p>筆記試験 (定期試験で60%以上の得点が単位認定の条件となる。小テストがあった場合は、その得点を成績に加味する。課題があった場合は提出をもって、口頭試問があった場合は合格をもって試験の受験を許可する。)</p>			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅲ(解剖学3)	
金 世野	鍼灸整骨院勤務 7年		
必修	2単位 (60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。基礎的な解剖学の知識を習得することで人体の構造を理解し、鍼灸臨床で遭遇する様々な症状の患者に対応できるようにすることを目的とする。また運動学では、人間の身体運動の構造や性質を物理学の力学の領域を用いて系統的に応用し、解剖学と関連させて学ぶことで、関節運動を深く理解することができる。関節障害などの症状に対応できるようにする。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>この講義では、運動学、解剖学（呼吸器系、泌尿器系、生殖器系）について、その知識を身に付けることを目標に学習する。</p>			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション・呼吸器総論	16回	上肢の運動学 (2) 肩・肘関節
2回	呼吸器系 (1) 鼻腔～気管支の構造	17回	上肢の運動学 (3) 手・体幹
3回	呼吸器系 (2) 肺の構造/胸膜・縦隔の構造	18回	上肢の関節の構造と運動学
4回	泌尿器系 (1) 腎臓の構造	19回	下肢の運動学 (1) 股関節
5回	泌尿器系 (2) 尿管～膀胱の構造/尿路の構造	20回	下肢の運動学 (2) 膝関節
6回	生殖器系 (1) 男性生殖器	21回	下肢の運動学 (3) 足関節
7回	生殖器系 (2) 女性生殖器	22回	下肢の関節の構造と運動学
8回	下肢の筋 (1) 下肢帯の筋	23回	運動学と上肢の局所解剖
9回	下肢の筋 (2) 下肢帯の筋	24回	運動学と下肢の局所解剖
10回	下肢の筋 (3) 大腿の筋	25回	運動学のベクトルとトルク (1)
11回	下肢の筋 (4) 大腿の筋	26回	運動学のベクトルとトルク (2)
12回	下肢の筋 (5) 下腿の筋	27回	運動学のベクトルとトルク (3)
13回	下肢の筋 (6) 下腿・足の筋	28回	運動学の総復習 (1)
14回	定期試験1	29回	運動学の総復習 (2)
15回	上肢の運動学 (1) 肩・肘関節	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
医療従事者において基礎となる大切な科目の為、居眠りなどせず、積極的に参加すること。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに必要事項を記入し、要点を見直し出来るようにすること。			
5 教科書			
解剖学 (医歯薬出版株式会社)			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
定期試験の結果60%以上で単位を認める			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	生理学Ⅰ(生理学1)	
遠藤 好美	免許取得後、鍼灸マッサージ治療院に勤務		
必修	2単位 (60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉			
<p>人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識は鍼灸師として必ず身に付けなければならないものである。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけでなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。またそれらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。この時間では、生理学の基礎となる事柄について学習した上で、循環・呼吸・消化および吸収の各機能について学ぶ。それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。</p>			
〈到達目標〉			
<p>生理学の基礎となる事柄について学習した上で、循環・呼吸・消化および吸収の各機能について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。</p>			
2 授業内容			
1回	生理学の基礎①細胞の構造と機能	16回	呼吸①呼吸器概要
2回	生理学の基礎②細胞小器官	17回	呼吸②肺機能
3回	生理学の基礎③体液の組成と働き	18回	呼吸③換気とガス交換
4回	生理学の基礎④物質移動	19回	呼吸④呼吸運動
5回	循環①血液の組成と働き、赤血球	20回	呼吸⑤呼吸の反射性調節
6回	循環②白血球、血小板、血漿	21回	消化と吸収①消化器系の構造と機能
7回	循環③止血、血液型	22回	消化と吸収②消化管の運動
8回	循環④心臓血管系	23回	消化と吸収③消化液（1）
9回	循環⑤心臓の構造と働き	24回	消化と吸収④消化液（2）
10回	循環⑥心機能の調節	25回	消化と吸収⑤消化管ホルモン
11回	循環⑦血液循環	26回	消化と吸収⑥吸収
12回	循環⑧循環調節	27回	消化と吸収⑦肝臓の働き
13回	循環⑨特殊な部位の循環、リンパ系	28回	消化と吸収⑧まとめ
14回	前半総復習	29回	後半総復習
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
<p>自ら学ぼうとする積極的な態度で臨むこと。生理学はのちに学習する臨床科目の礎となる科目である。わからないところ・疑問に思った点はそのままにせず質問するなどして理解に努めること。</p>			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
<p>授業の最初に前回の学習内容の確認を○×形式の小テストで行うので、しっかり復習をして臨むこと。</p>			
5 教科書			
<p>公益社団法人 東洋療法学校協会 編 『生理学 第3版』 医歯薬出版株式会社</p>			
6 参考書			
<p></p>			
7 成績評価の方法			
<p>授業の最初に行う復習テスト、章のまとめの際に行う確認テスト、定期試験を併せて評価する。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。</p>			
8 その他			
<p></p>			

専門基礎分野	人体の構造と機能	生理学Ⅱ(生理学2)	
長坂 仁詩	往診(個人事業)、国試黒本編集長		
必修	2単位(60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識を学習する。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけでなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。また、それらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>この時間では、主に神経系・筋・運動・感覚の各機能について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。</p>			
2 授業内容			
1回	神経基礎	16回	筋
2回	神経基礎	17回	筋
3回	神経基礎	18回	運動
4回	神経基礎	19回	運動
5回	中枢神経	20回	運動
6回	中枢神経	21回	運動
7回	中枢神経	22回	運動
8回	中枢神経	23回	感覚
9回	末梢神経	24回	感覚
10回	末梢神経	25回	感覚
11回	自律神経	26回	感覚
12回	自律神経	27回	感覚
13回	筋	28回	感覚
14回	定期試験1	29回	感覚
15回	筋	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
5 教科書			
生理学第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
<p>各試験で60点以上の成績をもって合格とする。</p> <p>※場合により、①小テストを実施してその結果 ②受講態度・出席状況 を加味する。</p>			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	生理学Ⅲ(生理学3)	
遠藤 好美	免許取得後、鍼灸マッサージ治療院に勤務		
必修	2単位(60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識は鍼灸師として必ず身に付けなければならないものである。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけでなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。またそれらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。この時間では、主に代謝・体温・排泄・内分泌・生体の防御機構・身体活動の協調について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。			
〈到達目標〉 生理学の代謝・体温・排泄・内分泌・生体の防御機構・身体活動の協調の分野について、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得する。			
2 授業内容			
1回	代謝① 食品と栄養素	16回	内分泌① ホルモンの特徴
2回	代謝② 糖質の代謝	17回	内分泌② 視床下部と下垂体のホルモン
3回	代謝③ 脂質の代謝	18回	内分泌③ 甲状腺・副甲状腺のホルモン
4回	代謝④ タンパク質の代謝	19回	内分泌④ 膵臓のホルモン
5回	代謝⑤ ビタミン・無機質の代謝	20回	内分泌⑤ 副腎のホルモン
6回	代謝のまとめ	21回	内分泌⑥ 性ホルモン・その他のホルモン
7回	体温① 体温調節	22回	内分泌まとめ
8回	体温② 体熱の産生と放散	23回	生殖・成長と老化① 生殖
9回	体温③ 発汗とその調節 体温調節の障害	24回	生殖・成長と老化② 成長・老化
10回	体温まとめ、排泄① 腎臓の働き 腎循環	25回	生体の防御機構①生体の防御機構
11回	排泄② 尿の生成	26回	生体の防御機構②白血球の働き
12回	排泄③ 腎臓と体液の調節	27回	生体の防御機構③免疫反応、アレルギー
13回	排泄④ 蓄尿と排尿	28回	生体の防御機構 まとめ
14回	排泄のまとめ	29回	身体活動の協調
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
自ら学ぼうとする積極的な態度で臨むこと。生理学はのちに学習する臨床科目の礎となる科目である。わからないところ・疑問に思った点はそのままにせず質問するなどして理解に努めること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業の最初に前回の学習内容の確認を○×形式の小テストで行うので、しっかり復習をして臨むこと。			
5 教科書			
生理学（東洋療法学校協会編）			
6 参考書			
生理学Ⅲ用に作成したサブテキストを使用する。			
7 成績評価の方法			
授業の最初に行う復習テスト、章のまとめの際に行う確認テスト、定期試験を併せて評価する。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。			
8 その他			

分野	基礎はり学、基礎きゅう学	東洋医学概論Ⅰ(東洋医学概論)	
谷 佳奈	美容系のサロンに3年、リハビリ施設に3年勤務		
必修	2単位 (60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学は鍼灸医学の根幹をなす学問である。この講義の目的は東洋医学における人体の捉え方や考え方を身近な事例を通して学び、西洋医学と異なった視点で東洋医学の世界観を理解することにある。 鍼灸臨床において東洋医学的に病態を把握するためには、東洋医学的な生理観および病理観の知識が欠かせない。そこでこの時間では生理事質(精・気・血・津液) および臓腑の生理と病理を関連する要素ごとに学んでいく。			
〈到達目標〉 最終的には、東洋医学による診断・治療を行うための基礎知識を身に付けることを到達目標とする。			
2 授業内容			
1回	ガイダンス	16回	蔵象⑥脾
2回	生理事質(精・気・血・津液)①	17回	蔵象⑦脾と胃
3回	生理事質(精・気・血・津液)②	18回	蔵象⑧肺
4回	生理事質(精・気・血・津液)③	19回	蔵象⑨肺と大腸
5回	生理事質(精・気・血・津液)④	20回	蔵象⑩腎
6回	生理事質の相互関係	21回	蔵象⑪腎と膀胱
7回	神の生理と病理	22回	蔵象⑫三焦
8回	人体における陰陽①	23回	五臓の相互関係①
9回	人体における陰陽②	24回	五臓の相互関係②
10回	蔵象①	25回	五臓の相互関係③
11回	蔵象②肝	26回	気機の相互関係
12回	蔵象③肝と胆	27回	経絡病証①
13回	蔵象④心	28回	経絡病証②
14回	定期試験1	29回	総復習
15回	蔵象⑤心と小腸	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
私語は慎むこと、机上に飲食物やスマホを置かない、その他学則に従い受講すること			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
5 教科書			
東洋医学概論			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
定期試験60%以上を合格とする。小テストを行った場合、成績に加味する。			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	経絡経穴概論Ⅰ(経絡経穴概論1)	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターに2年勤務、現在は訪問治療を行う。		
必修	2単位(60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。経絡経穴の概要、取穴する際に必要な知識である、骨度法・体表指標、また治療方法の決定に重要な役割を持つ要穴について知識を深めることで、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。習得する範囲としては、十四経脈のうち、督脈、任脈、手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経、足太陽膀胱経、手厥陰心包経までとする。			
〈到達目標〉 この講義では、実際に経穴を取穴することが治療にもつながることから、各経脈ごとに取穴実習を織り交ぜながら講義を行い、各自が確実に取穴できるレベルに到達することを目標とする。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション・経絡・経穴の概要	16回	足陽明胃経(講義)
2回	経絡・経穴の概要	17回	足陽明胃経(講義)
3回	経穴の概要	18回	足陽明胃経(取穴)
4回	体表指標、骨度法、同身寸法	19回	足陽明胃経(取穴)
5回	要穴の概要①	20回	足太陰脾経
6回	要穴の概要②	21回	足太陰脾経(取穴)
7回	督脈背部(講義)	22回	手少陰心経・手厥陰心包経(講義・取穴)
8回	督脈背部(取穴)	23回	手太陽小腸経
9回	督脈・任脈(講義)	24回	手太陽小腸経(講義・取穴)
10回	任脈・手太陰肺経(講義)	25回	手太陽小腸経(取穴)
11回	手陽明大腸経(講義)	26回	足太陽膀胱経(講義・取穴)
12回	督脈・任脈(取穴)	27回	足太陽膀胱経(講義・取穴)
13回	手太陰肺経・手陽明大腸経(取穴)	28回	足太陽膀胱経(取穴)
14回	定期試験1	29回	足太陽膀胱経(取穴)
15回	督脈～大腸経(取穴)	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
取穴実技においては実技細則に準拠すること。その他、学則に従い受講すること。			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
毎授業範囲の予習とサブテキストへの書き込みをしておくこと。			
5 教科書			
新版 経絡経穴概論 (医道の日本社)			
6 参考書			
鍼灸学 基礎編 (東洋学術出版社)			
7 成績評価の方法			
定期試験1および定期試験2それぞれ60%以上の成績を合格とする。小テスト成績、課題の提出状況、授業態度を成績評価に加味する。(※ただし定期試験2は、期日までに暗唱試験に合格しなければ評価を取消す。)			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	経絡経穴概論Ⅱ(経絡経穴概論2)	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターに2年勤務、現在は訪問治療を行う。		
必修	1単位(30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。経絡経穴の概要、また取穴する際に必要な知識である、骨度法・体表指標、また治療方法の決定に重要な役割を持つ要穴について知識を深めることで鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。また、経穴にはそれぞれ名称があり、由来を知ること経穴を理解することで大切な要素であるため、昔の解剖学的な名称などの知識を深める。習得する範囲としては、十四経脈のうちの手厥陰心包経、手少陽三焦経、足少陽胆経、足厥陰肝経までとする。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>実際に経穴を取穴することが治療にもつながることから、各経脈ごとに、取穴実習を織り交ぜながら講義を行い、各自が確実に取穴出来るレベルに到達することを目標とする。</p>			
2 授業内容			
1回	講義概要【講義】足の少陰腎経(講義)		
2回	足の少陰腎経(取穴)		
3回	手の少陽三焦経(講義)		
4回	手の少陽三焦経(取穴)		
5回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(講義)		
6回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(講義)		
7回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(取穴)		
8回	足の少陽胆経(頭部)(講義・取穴)		
9回	足厥陰肝経(講義・取穴)		
10回	手三陰経復習(取穴)		
11回	手三陽経復習(取穴)		
12回	足三陰経復習(取穴)		
13回	足三陽経復習(取穴)		
14回	取穴総まとめ		
15回	定期試験		
3 履修上の注意			
<p>取穴実技においては実技細則に遵守すること。実技細則違反は受講を認めない。</p> <p>その他、学則に従い受講すること。</p>			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
<p>毎授業範囲の予習とサブテキストへの書き込みをしておくこと。</p>			
5 教科書			
<p>新版 経絡経穴概論 (医道の日本社)</p>			
6 参考書			
<p>鍼灸学 基礎編 (東洋学術出版社)</p>			
7 成績評価の方法			
<p>定期試験で60%以上を合格点とする。小テスト成績、課題の提出状況、授業態度を成績評価に加味する。</p> <p>暗唱試験の合格者に対し、試験の受験資格を与える。</p>			
8 その他			
<p></p>			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	東洋医学概論Ⅱ(臨床はりきゅう論1)	
高松 巧	鍼灸接骨院5年勤務		
必修	2単位(60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学は鍼灸医学の根幹をなす学問である。この講義の目的は東洋医学における人体の捉え方や考え方を身近な事例を通して学び、西洋医学と異なった視点で東洋医学の世界観を理解することにある。この時間では「東洋医学概論Ⅰ」で学習した生体物質(精・気・血・津液)および臓腑の生理と病理をもとに、八綱病証や気血病証、臓腑病証、経絡病証など病証学の応用を主体に学習する。			
〈到達目標〉 東洋医学知識を応用することで、鍼灸臨床で対応する患者モデルをイメージできる能力を身に付けることが最終的な到達目標となる。			
2 授業内容			
1回	陰陽学説の基本内容①	16回	臓腑弁証【肝】
2回	東洋医学における陰陽学説の運用	17回	臓腑弁証【肝】
3回	五行学説の基本内容	18回	臓腑弁証【心】
4回	東洋医学における五行学説の運用①	19回	臓腑弁証【心】
5回	東洋医学における五行学説の運用②	20回	臓腑弁証【脾】
6回	病因①	21回	臓腑弁証【脾】
7回	病因②	22回	臓腑弁証【肺】
8回	病因③	23回	臓腑弁証【肺】
9回	病機①	24回	臓腑弁証【腎】
10回	病機②	25回	臓腑弁証【腎】
11回	病機③	26回	臓腑弁証【複合弁証】
12回	八綱弁証①	27回	臓腑弁証【複合弁証】
13回	八綱弁証②	28回	古代刺法
14回	定期試験①	29回	経絡弁証
15回	八綱弁証③	30回	定期試験②
3 履修上の注意			
授業開始前に着席しておくこと。スマートフォン等の電子機器の使用不可授業に関係のない私語を慎むこと。その他学則に順守する。			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
授業後の復習が重要になるその際、プリントを活用すると効率的である。			
5 教科書			
新版 東洋医学概論 医道の日本社			
6 参考書			
中医学の仕組みがわかる基礎講義			
7 成績評価の方法			
定期試験①と定期試験②を行いどちらも60パーセント以上を合格とする。			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	はりきゅう理論Ⅰ(はりきゅう理論1)	
木下 立彦	開業鍼灸師		
必修	2単位(40時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸施術を行う上ではりきゅうの概要、用いる器具、技術、衛生的処置などについての基礎的な知識は欠かせないものである。この科目においては古来より行われてきた鍼灸の流れを踏まえ、たうえではりきゅうの概要、道具や手技について学んでいくことによって、鍼灸臨床を行っていくうえで必要な基礎知識を習得する。また、臨床上起こり得る有害事象に対するリスク管理の重要性について理解し、対応と予防方法に関しての知識を習得することを目標とする。			
〈到達目標〉 鍼灸に用いる器具、技術、衛生的処置などについて鍼灸施術を行うのに必要な基礎知識を身につける。また、臨床上起こり得る有害事象に対するリスク管理の重要性について理解し、対応と予防方法に関しての知識を習得する。			
2 授業内容			
1回	概論	16回	鍼療法の過誤と副作用①
2回	鍼の基礎知識	17回	鍼療法の過誤と副作用②
3回	古代九鍼	18回	灸療法の過誤と副作用①
4回	刺鍼の方式と術式	19回	まとめ②
5回	刺鍼中の手技①	20回	定期試験②
6回	刺鍼中の手技②		
7回	特殊鍼法①		
8回	特殊鍼法②		
9回	まとめ①		
10回	定期試験①		
11回	灸の基礎知識		
12回	灸術の種類①		
13回	灸術の種類②		
14回	鍼灸療法の刺激量量と感受性、適応と禁忌		
15回	リスク管理の基本		
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机の上に置かない。学則に則って受講すること。			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
授業内で確認テスト適宜行う予定			
5 教科書			
はりきゅう理論(東洋療法学校協会編)			
6 参考書			
鍼灸安全ガイドライン			
7 成績評価の方法			
1、定期試験①60%・定期試験②60%で単位認知する 2、出席状況・授業態度を①の点数に加味することがある			
8 その他			
シラバスは状況により変更することがあります その時は適宜お伝えします			

専門分野	実習	鍼実技(はりきゅう実技1A)	
野口 智立	2007年より鍼灸治療院に勤務し、現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	2単位 (60時間)	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼施術は刺鍼する位置、角度、深さは、施術者の思った部分に刺鍼できることは基本であるが、練習が必要である。 この講義では、鍼の基本操作（消毒、刺鍼の仕方など）を習得し、身体各部への刺鍼を行う。また、医療事故に対する留意点を認識し、安全な刺鍼操作を身に付ける。			
〈到達目標〉 安全な刺入深度、刺入方向での刺鍼をすることができ、また、ステンレス鍼、銀鍼を操作できるようにする。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション、施術上の注意、片手挿管法	16回	銀鍼（対人腰部・腹部）
2回	直刺、斜刺、刺鍼転向法（練習器）	17回	銀鍼（対人腰部・腹部・委中）
3回	刺鍼練習器、消毒法、自己下腿刺鍼（直刺・斜刺）	18回	ステンレス鍼背部下部、ステンレス鍼肩背部
4回	自己下腿刺鍼（直刺、斜刺、横刺）、対人下腿刺鍼	19回	銀鍼、ステンレス鍼背部
5回	対人下腿刺鍼（直刺、斜刺）、置鍼	20回	定期試験
6回	対人下腿刺鍼（直刺、斜刺）、横刺		
7回	対人下腿刺鍼（直刺、斜刺、横刺）		
8回	対人下腿刺鍼（直刺、斜刺、横刺）、刺鍼転向法		
9回	対人下腿、前腕（直刺、斜刺、横刺）		
10回	対人下腿、前腕、腰部刺鍼、十七手技		
11回	対人下腿、前腕、腰部刺鍼、十七手技②		
12回	銀鍼（練習器、自己下腿）		
13回	銀鍼（自己下腿、対人下腿）		
14回	銀鍼（撚鍼法、自己及び対人）		
15回	銀鍼（対人腰部）		
3 履修上の注意			
身だしなみを整え、危険を伴う実習であることを常に心がけること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
自宅での練習を必ず行うこと			
5 教科書			
はりきゅう実技〈基礎編〉（医道の日本社）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
「実技細則」違反は出席を認めない。試験で60%以上の得点が単位認定の条件となる。授業態度を評価に加味する。 試験までに片手挿管法10回/分、及びステンレス鍼練習器B刺鍼（1分以内）ができた者に受験資格を与える。			
8 その他			

専門分野	実習	灸実技(はりきゅう実技ⅠB)	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターに2年勤務、個人で訪問治療を行う。		
必修	2単位(60時間)	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 灸術の基本的な技術を学ぶ。艾炷の形や大きさ、ひねり方、点火など、基本的な動作を身につけることを目標とする。また、施術者としての身だしなみや言葉遣いなど基本を学び身につける。			
〈到達目標〉 施灸を行う対象物を板、竹筒、紙など、様々なもので基礎的な力を身につけ、人体においても正確かつスムーズな施灸が出来ることを最終目標とする。			
2 授業内容			
1回	手洗い 施術上の注意 艾の種類 灸術の種類 艾ひねり	16回	基礎練習 対人腎俞・大腸俞
2回	米粒大艾ひねり・線香のつけ方・点火	17回	基礎練習 対人身柱・至陽・肺俞
3回	板上施灸米粒大、点火、艾ひねり&エア一点火、対人施灸デモ	18回	基礎練習 対人中脘・天枢・気海
4回	板上施灸 米粒・半米粒大 灸熱緩和 自己下腿施灸	19回	基礎練習 胃の六つ灸
5回	板上施灸 米粒・半米粒大 互いに評価	20回	基礎練習 お互いに評価
6回	板上施灸 米粒・半米粒大 互いに評価	21回	基礎練習 対人失眠
7回	板上施灸 米粒・半米粒大 紙上施灸	22回	基礎練習 対人百会
8回	板上施灸 米粒・半米粒大、自己下腿・対人足三里	23回	基礎練習 背部俞穴
9回	板上施灸 米粒・半米粒大、対人足三里	24回	基礎練習 知熱灸
10回	板上施灸 米粒・半米粒大、対人失眠	25回	基礎練習 プレテスト
11回	基礎練習 竹筒施灸、温度測定	26回	基礎練習 肺経～胃経 五俞・五行 8分灸
12回	基礎練習 互いに評価、対人施灸足三里	27回	基礎練習 脾経～小腸経 五俞・五行 8分灸
13回	基礎練習 対人施灸足三里	28回	基礎練習 膀胱～心包経 五俞・五行 8分灸
14回	基礎練習 対人施灸腎俞	29回	基礎練習 三焦経～肝経 五俞・五行 8分灸
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
実技細則を遵守すること。実技は怪我・事故を起こす危険があるため、私語を慎み、担当教員の指示に従うこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
自宅・実技室開放日などを利用し、練習をすること。			
5 教科書			
はりきゅう実技（基礎編）第2版（東洋療法学校協会編）（医道の日本社）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
①各試験で60%以上の点数を合格とする。③課題未提出者は評価を取り消す。③受講態度を成績評価に加味する。 ④「実技細則」違反は出席を認めない。			
8 その他			

専門分野	実習	鍼灸基礎実技(はりきゅう実技1C)	
高松 巧	鍼灸接骨院5年勤務		
必修	2単位(60時間)	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>鍼灸実技、灸実技でそれぞれ習得した鍼と灸の基本操作と技術をふまえ、鍼術・灸術の基本手技を総合的に身につける。</p> <p>鍼に関しては、刺鍼対象の経穴に目的の深度・角度に安全かつ適切に刺鍼できる技術を身につける。また、灸に関しては、透熱灸・八分灸以外の施灸方法を学ぶことで様々な灸法の基本技術を習得する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>治療経穴をスムーズかつ正確に取穴ができること、身体各部への刺鍼・施灸が安全かつ正確に行えることを到達目標とする。</p>			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	16回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸1
2回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(上肢・下肢)	17回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸2
3回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(上肢・下肢)	18回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸3
4回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(腹部)	19回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸4
5回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(腹部)	20回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸5
6回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(背部)1	21回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸6
7回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(背部)胃の六つ灸	22回	鍼灸基礎練習、隔物灸1
8回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(頸肩部)	23回	鍼灸基礎練習、隔物灸2
9回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(頭顔面部)	24回	総まとめ
10回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(頭部)	25回	定期試験②
11回	定期試験①		
12回	鍼灸基礎練習、中国鍼(両手切皮)		
13回	鍼灸基礎練習、中国鍼(両手切皮)		
14回	鍼灸基礎練習、中国鍼(腰部)1		
15回	鍼灸基礎練習、中国鍼(腰部)2		
3 履修上の注意			
<p>実技細則違反をしたものは授業の履修を認めない。</p> <p>他者の命を扱うこと自覚し、教員の指示に従って授業に取り組むこと。</p>			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
毎授業での課題提出と自己練習を欠かさないこと。			
5 教科書			
はりきゅう実技〈基礎編〉〈医道の日本社〉			
6 参考書			
鍼灸医療安全ガイドライン〈医歯薬出版株式会社〉			
7 成績評価の方法			
<p>最終評価が60%以上で単位を認定する。</p> <p>授業で課した課題をこなしたものに対して受験資格を与える。</p>			
8 その他			